

雲の上で感じる四季

今日もJALグループの翼をお運びいただき、ありがとうございます。

日本では厳しい残暑の中にも、夕暮れの空の色や風の音に、どこか秋の訪れを感じる頃となりました。大地が鮮やかな色彩に包まれる、実り豊かな季節を迎えようとしています。

日本では古くから四季の移ろいや季節の言葉を五感で慈しみ、人生を豊かにする心の拠り所として大切にしてきました。この美しい四季を雲の上でも感じていただきたい――。

私たちは、そんなささやかな想いを込めて、お食事をご用意するようにしています。

高度1万mの機内という特殊な環境で、日本ならではの繊細な味わいや見た目の美しさを表現するためには、目に見えない数々の工夫があります。上空の気圧の変化を考慮した味付け、機内の明るさに映える色彩、そして飛行機の離着陸や揺れに耐えながらもみずみずしさを保つために

「あん」や「ジュレ」をまろわせるなど、細部へのこだわりがちりばめられています。

客室乗務員時代、私自身、何度かメニュー開発や試食の場へ足を運びました。そこはお客さまの笑顔のために真摯に向き合う、作り手たちの真剣勝負の舞台。試食を担当する私たちも^{そんざく}付度なしにアンケートに意見を書いたことを覚えています。シェフのこだわりと熱意に満ちたレシピは、生産者の方々から調理スタッフ、搭載スタッフ、そして客室乗務員へとバトンが渡されていきますが、それは「想いをつなぐ」瞬間でもあると感じたものです。こうした一人一人の熱意と努力が繋がっていくからこそ、お客さまの期待にお応えで

きる一皿が生まれると信じています。だからこそ、飛行機に乗るときはいつも、「お食事から広がる香りや彩り、そして、一口目の味わいに喜びを感じていただけているだろうか」と、今でも自らに問いかけています。皆さまの旅に寄り添う温かいひとときを感じていただけるよう、「自分がお客さまだったら」という原点を大切にしていきたいと思っています。

9月は「秋」のお食事が始まる月です。日本には『ちいさい秋みつけた』という秋の始まりを静かに歌う童謡があります。その中の一節のように、機内でも、「小さな秋」を感じていただければと願っています。

皆さまのこれからの旅路が、豊かで実り多きものとなりますように。

次回のご搭乗も心よりお待ちしております。

イラスト／山本祐希子

とっとりみつこ／1964年、福岡県久留米市生まれ。
1990年4月入社（客室乗務員）。2019年に客室安全推進部長、2020年に執行役員客室本部長、2022年に常務執行役員客室本部長、2023年に専務執行役員カスタマー・ウェルネス本部長に就任。同年6月に代表取締役専務執行役員、グループCEOに就任し、翌2024年4月から現職。趣味は音楽鑑賞と大河ドラマを見ること。

